

令和8年度 新刊図書一覧

4月新刊図書

1 『失われた貌』

著者：櫻田 智也

出版社：新潮社

ミステリ×人間ドラマの金字塔

【本屋大賞ノミネート(2025年)】

2 『夜があけたら』

著者：青波 杏

出版社：KADOKAWA

戦って、諦めて、もがいて、忘れようとして、傷ついて、傷ついていないふりをして、それでも、ここまで来た。

まだ続いている、わたしたちの物語。

3 『うた子と獅子男』

著者：古谷田 奈月
出版社：河出書房新社

夢もない、金もない。
与えられた身体ひとつで、人生を切り抜ける。
「うた子、走れ！」

4 『生きとるわ』

著者：又吉 直樹
出版社：文藝春秋

「生きる」とは、こんなにもやりきれなくて、
おかしい

5 『石破くん』

著者：橋 威智郎
出版社：文芸社

「普通に愚直に生きてきた」
ある男の成長と葛藤、そして彼を取り巻く人々との
ドラマ

5月新刊図書

1 『PRIZE－プライズー』

著者：村山 由佳
出版社：文藝春秋

賞(prize)という栄誉を獰猛に追い求める作家・
天羽カインの破壊的な情熱が迸る衝撃作！
【本屋大賞 ノミネート(2026年)】

2 『暁星』

著者：湊 かなえ
出版社：双葉社

ただ、星を守りたかっただけ――
【本屋大賞 ノミネート(2026年)】

3 『さよならジャバウオック』

著者：伊坂 幸太郎
出版社：双葉社

その怪物はあなたの中にもいるかもしれない。
数々の謎を引き連れて想像のつかないラストに
たどり着く、著者渾身の長編ミステリー！
【本屋大賞 ノミネート(2026年)】

6月新刊図書

1 『大ピンチずかん ※全3巻セット』

著者： 鈴木 のりたけ

出版社： 小学館

誰もが経験したことがあるような大ピンチを「大ピンチレベル」の小さいものから順に紹介。あらゆる方向から大ピンチを解き明かす、ユーモアたっぷりの絵本です。ピンチはいつも思わぬところからやってくるもの。子どもも大人も、3冊あわせて読んで、突然のピンチに備えましょう！

【年間ベストセラー 総合第1位(2025年)】

2 『イン・ザ・メガチャーチ』

著者： 朝井 リョウ

出版社： 日本経済新聞出版

令和日本の空気と、うごめきを小説に封じ込め、人の心を動かす“物語”の光と闇を炙り出す。

【第23回 本屋大賞 受賞(2026年)】

【第2回 あの本、読みました？大賞第1位(2026年)】

【第9回 未来屋 小説大賞 第1位(2025年)】

3 『エピクロスの処方箋』

著者：夏川 草介

出版社：水鈴社

「医療では、人は救えないんだよ」

治せない病気は山のようにあるが、癒せない
哀しみはない。

思想する医師・雄町哲郎は今日も京都の街
をゆく――。

【第23回 本屋大賞 第4位(2026年)】

7月新刊図書

1 『ありか』

著者：瀬尾 まいこ

出版社：水鈴社

母との関係に悩みながら、娘ひかりを^{いづ}慈しむ
シングルマザーの美空と、同性愛者である義弟の
颯斗が織りなす家族の物語。

【第23回 本屋大賞 第7位(2026年)】

2 『おまあ推理帖』

著者：諸田 玲子

出版社：文藝春秋

江戸時代の浅草を舞台に、愛らしい老婦人おまあ
が殺人事件や怪文書、凶宅の謎など様々な難事件
を解決する、ミステリー。

3 『真木あかりの超実践 星占い入門 運を先取り する、使いこなせる』

著者：真木 あかり

出版社：主婦の友社

人気占い師が教える、超実践的な西洋占星術
入門。自分の運気を先取りでき、個性や意思を
活かしながら運気をポジティブに変える方法が分か
ります。

手元に置いて毎日開きたくなる、一生ものの星の
教科書。

8月新刊図書

1 『見えるか保己一』

著者：蟬谷 めぐ実

出版社：KADOKAWA

全盲の天才学者が感じたのは、絶望か希望か。

俊英の新境地にして大本命！

【第175回 直木賞候補作】

【第 39回 山本 周五郎賞 受賞作】

2 『探偵小石は恋しない』

著者：森 バジル

出版社：小学館

そのひと言で、世界が一変する。

驚愕体験の本格ミステリ！

【第 4回 メフィストリーダーズクラブ大賞
第1位(2025年)】

【第12回 ミヤボン大賞 受賞(2025年)】

3 『ブティック』

著者：池井戸 潤

出版社：ダイヤモンド社

暗夜を照らす、星になれ。

待望の最新作！

9月新刊図書

1 『たるいこんいんたん多類婚姻譚』

著者：凧良 ゆう

出版社：講談社

一緒に生きられる？わかりあえない私たちは
【第175回 直木賞候補作(2026年)】

2 『7、8月のストローク』

著者：長嶋 有

出版社：講談社

「新たな一歩」を踏み出す人々の、ひと夏を描いた感動作！
ままならぬ現実を生きる彼らのしんどさを、私たちはよく知っている。

けれど、ほんの少しの希望があれば前に進めることにも、私たちは気付いているのだ。

3 『777(トリプルセブン)』

著者：伊坂 幸太郎

出版社：角川書店

そのホテルを訪れたのは、逃走中の不幸な彼女と、不運な殺し屋。そして――

4 『ファーブル昆虫記(ビジュアル特別版)』

原著:ジャン＝アンリ・ファーブル

著者:古川 晴男

出版社:世界文化社

「見ることは知ることだ。」

ファーブルの情熱と探求心を現代の子どもたちに。